

幼稚園の現場から

VI

鶴谷主一

原町幼稚園(静岡県沼津市) 園長

◆2学期の始業式。長い夏休みが明けた日、降園時間にお迎えに来たお母さん方の「長かった～～」「やっと始まった！」という嬉しそうな顔がたくさん並んで久々の井戸端話に花が咲いていました。

原町幼稚園では、毎年8月の最後の週、今年は23日から2学期をスタートさせました。地元の小学校より約1週間早いため、お母さん方からは「幼稚園が先に始まってくれると助かります！上の子の宿題を見てあげられるから…。ホント1時間でも助かるんです！」という声も聞かれました。

そこをねらって早く始めている訳では無いんですが、思わぬところで喜んで頂けるのは嬉しいことです。

◆ネット上に見かける疑問

“幼稚園の夏休み”とインターネットで検索すると、世の中のお母さん方の疑問や不満がネット上にたくさん飛び交っています。

内容を大きく分けると3つ。

1つめ…「どうしてこんなに長いの？」「いつからいつまでが夏休み？」という期間について疑問や不満。

2つめ…「8月は休みなのに保育料を払わなくちゃいけないの？」という月謝に関する疑問や不満。

3つめ…「預かり保育」についての情報交換。

◆8月の保育料って

簡単な疑問から答えていきますと、「諸経費は年額を12等分してあるので8月等長期お休みにも振り分けられます。」ということを予め説明していない幼稚園の保護者の方が疑問をネット上に投げかけているのだと思います。たいていの幼稚園ではどこかで説明しているはずですので、了解済みの方が大半だと思います。原町幼稚園では入園案内に記載しています。

しかし、心情的にはしっくりこないでしょう！幼稚園に行っていないのにお金を払わなくちゃならないからです。経営者としてその気持ちをヒシヒシと感ずることもあってか、8月に一週間程度「夏期保育」を行っている園がほとんどです。「8月もやりますよ、いちおう」というスタンス。



《夏ならではの活動/ボディペインティング
専用の絵の具を使って最初は手から…》

教育的側面から見ると、夏ならではの“お楽しみプログラム”を用意して楽しむ園も多く、保育者にとっては「カリキュラムに追われない保育」ができて、子どもたちと楽しい時間をすごせることも多いものです。たとえば、スイカ割りやそうめん流し、ボディペインティング、夕涼み会などの計画をする園もあります。

また、最初から8月は集金を避けたり、年間数回に分けての分割方式など、園によってそれぞれ保護者の不満が出ないように工夫されていますが、支払回数が変わるだけで総額は変わらないでしょう。



《顔にも塗ってみようかなあ…》

◆次に、夏休みの期間ってどうやって決まってるの？という疑問にお答えです。

文部省管轄下にある幼稚園では、学校教育法と幼稚園教育要領という法律や規則にのっとり、それぞれの園の休業日は幼稚園の経営主体である学校法人の理事会で承認を得た「学校法人〇〇学園 園則」という規程に定めてあります。簡単にいうと、公立学校に準じて学期や夏休みを設定してきました。それなのに私立幼稚園では、あっちの園は夏休みが長くて、こっちの園は短いし、始業の日もバラバラじゃないですか、どうして？

原町幼稚園の園則を抜粋してみましょう。

第2章「学年、学期及び休業日」の第7条に休業日が定めてあります。こちら→『休業日は、次のおりとする。ただし、園長が必要があると認める場合には、休業日を変更することができる。』

- (1) 土曜日、日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 夏季休業日 7月20日から8月31日まで
- (4) 冬季休業日 12月20日から翌年1月7日まで
- (5) 学年末・学年始休業日3月20日から4月7日まで

たいていの学校法人の園則には、園長が必要と認めれば変更することができる、という一文が入っているのがミソで、それぞれの園の都合に合わせて長さを決めることができます。

ただし、幼稚園教育要領で規定されている保育日数（年間39週以上／概ね220日）を確保しなければならないので、極端に長い夏休みはありえません。逆に短いぶんには制限が無いので、急進的な園では、夏休みを廃止した園もチラホラ出始めたという話を聞きます。

ちなみに、皆さんご存知のように保育園には夏休みはありません。お盆でも希望があれば保育士が出勤して子どもを預かります。原町幼稚園の向かい側に建つ原町保育園では今年もお盆の間、2～4人の子どもが登園し、2人の保育士がのんびりと保育をしていました。今後増えてくる「子ども園」では、通常保育時間と長時間保育を親が選択することになると思いますので、長時間保育希望者の子どもを対象に、保育園並みに園を開けておくケースが多くなると予想します。

◆一般的「預かり保育」タイプ

ここ数年来、夏休みを完全休業にするのは、主に公立幼稚園か、少数派の幼稚園になってきました。大半は「長期休業日の預かり保育」を行っています。

今は当たり前のようになっていますが、夏休みの預かり保育は、この10年ぐらいでワッと広がった制度です。2004年からしかデータがありませんが、沼津市内23カ園のうち2004年に実施していた園はわずか9カ園。2005年には13カ園。2011年は21カ園で実施されています。急激に増えているのがお分かりでしょう。原町幼稚園でも、ちょうど10年前の2001年から夏の預かり保育を始めています。



《テーブルの上でフィンガーペインティング》

◆教職員の立場から

ここ数年広がってきた夏の預かり保育の流れの中で、利用者からは歓迎の声が上がる一方、勤務する教職員の間からは不満の声もネット上で見かけます。今まで長い休みを享受してきた教職員の理解を得ずに実施を急ぐと不満も生じるとは思います、本音でもあるでしょう。

まず年次有給休暇という問題があります。経営的に余裕のある一部の大規模園を除き、クラス担任のピンチヒッターが常駐しているような人的余裕ある園はなかなかありません。そこで幼稚園に勤務する教職員はよっぽどのことでないと通常保育日に有給休暇を取ることは難しくなります。

そのため幼稚園では、夏休み、冬休み等の長期休業日にまとめて有給を取ってもらうように労使で協定をしています。（労働基準法第39条第6項を適用）ですから、年次有給休暇の日数を考慮して、教職員の夏休みの出勤日を決めていく必要があります。

次に、教職という仕事は、常に専門的な新しい情報や理念、保育方法を学習していくことが不可欠です。そのため、夏休みが長かった時代でも有給休暇日数を超えた休日は自宅研修をするという名目で自己研鑽を促してきました。さらに、各研究団体が成果を発表したり、研修会を開催することも夏休み期間中に集中してきます。夏の預かり保育の広がりによってそのような学習の機会が圧迫されていくことは、教育現場としての教育力が低下することにつながっていくので、懸念材料となります。更に教員免許の更新のため10年ごとに所定の研修を受けなければならないことを考慮すると、人的余裕のない（大半の）幼稚園は、ますます仕事のウエイトが増し、苦しくなることも懸念されます。

休暇を個人として楽しみ、リフレッシュすることは仕事への鋭気も養えると私は思いますので、教職員を犠牲にして預かり保育を行うことは避けなければならないと考えています。ニーズに応える経営的な側面と働く人のバランスは常にとっていかなくってはならない肝心なことです。

◆預かり保育システムについて

「預かり保育」をご存知無い方、もっとよく知りたい方のために、このシステムについて解説しておきます。知っている方は飛ばして頂ければ結構です。

「居残り保育」という言い方をしたほうがピンとくる方も多いかもしれません。

各園が自主的に行っていた「居残り保育」時代にはその仕事に補助金はつきませんでした。が、「預かり保育」として事業化し申請し、実績書類を提出すれば補助金が出るようになったのです。

余談ですが「居残り」というとイメージが悪いので「預かり」と言ったのか知りませんが、そのままのネーミングを使っている園は少なく、「アフタークラス」や「たんぽぽクラス」といったクラスネームを付けて呼んでいます。原町幼稚園では、いっぱい遊ぶぞ！というイメージで「あそびっこ」と呼んでいます。



《どれどれ？鏡で確認》

幼稚園で子どもを預かる時間は、昼食の1時間を入れてほしい5時間、朝の9時から午後2時が適当ですよ、となっています。平成20年10月改定された幼稚園教育要領によって『幼稚園の保育時間は、幼児の教育時間の妥当性や家庭や地域の生活の重要性を考慮して4時間が標準』とされているからです。

しかし、時代の流れからパートで働くお母さん方が増え、社会的なニーズが高まったことから「子どもを預かる時間を延長したら補助金も出しましょう」という行政の施策が出てきました。沼津市内でも通常保育日の預かり保育は2005年度から100%の実施率です。

そのうち「長期休業日に実施したら補助金を加算する」というオプションがつき、夏休みの預かり保育が急激に増えてきたわけです。「他園がやっているのにウチでやらないわけにはいかない」という経営判断も実施に拍車をかけました。

行政が打ちだす補助金の制度は毎年微妙に変わ
るのですが、『長期休業日加算』と同時に出された
て『休日に実施したら加算』というオプション、そ
して最新の『通常日に5時間以上実施したら1時間
ごとに20万円加算』というオプションも出てしま
した。…ということは、午後7時以降、あるいは午
前7時の早朝もやれる。幼稚園は、やろうと思えば
保育園以上に長時間、長期間子どもを預かること
ができるようになってしまいました。

預かり保育事業は、保護者から頂く預かり保育の
利用料（保育料とは別料金）と補助金で、運営費（ほ
とんどが担当職員の人件費）をまかないますが、利
用人数さえいけばじゅうぶん採算の取れる事業だ
と思います。ただ休日や長時間に踏み切るのは、「本
来保育園に入園するはずの幼児が、入れなくて仕方

なく幼稚園に入園してきて、休日保育を要求したの
で実施を決意した」ような稀なケースしかないだろ
う、と私は思います。

◆具体的な例として

「原町幼稚園の夏休み」をご紹介します。

原町幼稚園の夏休みは、園児用3つのメニューと
小学生と未就園児対象メニューで施設を利用でき
るようにしています。保護者のニーズ、子どものあ
そびたい気持ちにに合わせて選んでもらえればい
いと考えています。

主に卒園児対象ですが、知り合いの小学生でも夏
のあそびっこを利用できます。5年生以上は先生
のお手伝い係として働いてもらうので、無料で預かり
ます。これほどメニューが多いのは、ちょっと珍し
いかもかもしれません。

◆原町幼稚園「夏休み」の5つのメニュー

- ①夏のあそびっこ（預かり保育）★08：30～17：30（有料¥500/回数券使用で¥400）
- ②園庭開放 ★09：00～11：30（無料/雨天中止）
- ③プール開放 ★13：30～14：30（無料/保護者同伴/雨天中止）
- ④未就園児園庭開放&プール ★10：30～11：30（無料/保護者同伴）
- ⑤小学生（①の場合のみ4年生まで有料、自習時間を設ける）

◆2011年・夏の日程表（8/1～19で全メニュー①～⑤実施）

担当職員数と利用人数（内小学生人数）/全園児187人

月	火	水	木	金
7/25	26 預かりのみ メニュー①⑤ 担当職員数→ 職員 3人 利用人数(小学生) 利用64(21)	27 預かりのみ メニュー①⑤ 職員 3人 利用58(26)	28 預かりのみ メニュー①⑤ 職員 3人 利用52(20)	29 お休み 職員園内大掃除
1 職員 5人	2 職員 5人	3 職員 5人	4 職員 5人	5 職員 5人

利用84(17)	利用102(40)	利用89(31)	利用66(12)	利用84(23)
8 職員 5人 利用74(17)	9 職員 5人 利用71(28)	10 職員 5人 利用74(23)	11 職員 5人 利用53(12)	12 お盆休み
15 お盆休み	16 職員 4人 利用11(2)	17 職員 4人 利用34(7)	18 職員 4人 利用43(6)	19 職員 4人 利用42(10)

◆職員シフトの入れ方

参考になるかどうかわかりませんが、具体的に実際の作業を解説します。

〈1〉まず、夏休み期間中(7/25~8/22)のうち、16日間で夏のメニューを実施しますので、毎年の利用人数から予測して一日の職員の必要人数を決めます。

〈2〉次に延べ必要人数を出します。

(3人×3日) + (5人×9日) + (4人×4日)
=延べ70人

〈3〉18人の教職員を経験年数別に分け、出勤日数を決めて70になるようにします。ピッタリ分けることは難しいので、余分はパート職員が担当します。パート職員が勤務日数を増やしたいと希望した場合は、常勤職員の日数を減らします。

そうすると、次のように一人ひとりの出勤日数が決まります。

○経験年数長い職員 4人×4日勤務=16

○次に長い職員 3人×5日勤務=15

○新人職員 4人×7日勤務=28

○パート職員 3人で残りの11日を担当

計算すると(16+15+28+11=70人)

ここまでが園長の作業。

〈4〉このあとは、同じ日に経験の浅い職員が偏らないように配慮しつつ、経験年数の長い職員から、希望日と希望時間(早番と遅番)を入

れていきます。あとは職員同士で話し合いつつ出勤日が決まっていきます。

〈5〉名前が入ったら経験のある教員を園長がリーダーに指名し、責任を持ってその日の保育を組み立ててもらいます。

以上で日々の担当者が決まります。

7日間出勤する職員でも、夏に9日間の有給休暇は取れることになります。(残りは冬休み、春休み等で取ってもらいます)

今年のお盆明けは利用人数が予想よりずいぶん少なかったため、3人体制、もしくはお休みにしても良かったと思います。この反省が来年度の日程と人数配置に反映します。



◆小学生が意外と多い

利用人数を見て頂くと小学生の人数が多いことがわかります。前半2週間は6年生の職場体験の子どもたちが7~8人含まれていますが、その他は有料の預かり保育利用児童です。小学生が多くなると、幼児と遊びかたが違うため、困ることも起こるため

広報はしていませんが、口コミで広がって卒園児中心に利用者が増えてきました。

背景としては、小学校に子どもが上がるとパートに出るお母さんも増えます。普段は子どもが学校に行っている間に仕事をするのですが、学童保育を利用していないため、夏休みは子どもの預け先が困るというケースです。主に低学年が多いのですが、学童保育からはじき出される4年生以上の児童の利用もありました。

小学生も行き場所が無いのかなあ、と思います。今年は保育園卒園児の申込もありました。実際に保育園卒園児の小学生ほどニーズは高いと思いますが、保育園は園児が通園しているので、受け入れてあげたい気持ちはあるんですが、部屋はありません。そこで幼稚園で受け入れたという訳です。

6年生、中学生、稀に高校生も**職場体験**で来園しますが、これはとても助かります。

先生達に言わせると、夏のあそびっこより通常保育のほうが楽だと言います。なぜなら、1クラス30人の自分のクラスを保育するのは慣れているし、年齢も同じで子どもの性格も把握しています。しかし夏のあそびっこでは年齢もごちゃまぜで、来園する時間も利用するメニューもそれぞれです。いろんな立場の子どもたちがいっしょにいる訳で、受付して、対応するだけで目が回る忙しさです。

そんなとき、小さい子どもたちの面倒を見たり、コップを洗ったり、お掃除をしたり、ほんとうに職場体験の学生はよく働いてくれると言います。なので、来年度は職場体験をもっと募集しようと考えています。小学生も小さい子どもたちと触れ合うことで、優しくなったり積極的になったり、いい効果が現れてきます。先生は助かる！お互いにメリットがあるのでです。

◆ただし！小学生の受け入れについてはきちんとラインを引き、具体的に要求をしておく必要があります。次の文章は、小学生保護者向けの（実際には在園児に毎年配布している）手紙の抜粋です。

参考までに。



《ケッコウなりきってます！》

夏のあそびっこを利用される小学生保護者の皆様へ

夏の園庭利用に小学生の皆さんがたくさん遊びに来てもらって嬉しい反面、小学生と幼児の遊び方、動きが違いため時には幼児にとって危険であったり、怖くて遊べない状況が出てきてしまいます。そこで、園としては、園児が安心して遊べる環境をキープすることを最優先すべきと考え、次のように小学生の皆さんには利用のしかたをお願いすることになりました。小学生の遊びたい気持ちは良くわかりますが、万が一ケガをさせたいすると重大なことになるのでご理解下さいますようお願い致します。

◎行動が活発すぎて、幼稚園児と一緒に過ごすのは難しいと判断した場合は、

申し訳ありませんが利用を遠慮して頂きます。

以上、利用するお互いの安全のためご理解よろしくお願い致します。

夏のあそびっこにきてくれる小学生のみんなへ ※低学年のお子さんにはお家の方が読んであげてください。

□夏のあそびっこを利用する小学生は、次のことを守って下さい。

- 小さい子どもの面倒を見て、あぶなくないように一緒にあそんであげてください。
- 先生のお手伝いも積極的にしましょう。
 - 自習の時間は、家から持ってきた宿題や本を読んでしっかり勉強しましょう。
 - 小学生同士のボールあそびはしないでください。
 - ブランコやすべり台の上など、小さい子には危険な場所では、
周りの小さい子どもにぶつからないように注意してあそびましょう。
 - プールの時は水しぶきを上げたい、小さい子どもが怖がらないように上手にあそんで下さい。
- ◆ご協力いただける小学生については園庭解放、及びあそびっこにてお預かりいたします。

以上のようなやり方で、今年も夏休みを運営してきましたが、夏休み中1回も来園しない子どももいます。どれぐらいの比率かというと、

年長児58人中22人（38%）

年中児60人中14人（23%）

年少時58人中18人（31%）

満3歳児7人中1人（14%）という結果でした。

年長児が多かったのは意外な感じがしましたが、兄姉のいる家庭がほとんどだったので、家でも楽しく遊んでいるのでは？と想像したのです。

2学期にほとんど全員が揃って顔を合わせましたが、夏のあそびっこの回数に全く関係なく子どもたちは、1学期の友だち関係を再開させていました。



《かわいくペイントできました》

学校法人松濤学園 原町幼稚園

7クラス 現在 187 名在籍

園長 鶴谷主一

幼稚園歴 28 年(内園長歴9年)

<http://www.haramachi-ki.jp>

◆夏休みのメリット

いろいろ夏休みについて書いてきましたが、こんなに書くことがあったかと自分でも驚いています。

しかし今までの話は「大人サイドの話」です。では、いちばん肝心な子どもの成長発達にとっての夏休みってどうなのでしょう？

私自身の経験から、夏休み明けの子ども達が登園してくると、「お、一皮むけたなあ！成長したなあ！」と感ずることが多々ありました。そういう視点で、夏休みが開けの様子を各クラス担任から聞いてみましたので、最後に書き加えておこうと思います。

+++++

「年長組担任の報告」

- 誕生日のメッセージカードを各自書くのですが、文字が書けるようになった子どもがぐーんと増えて、見本もいらなくなりました。
- 朝、部屋に入ったときに「あれっ？」というほどピシッとイスに座って、しっかりこっちを見ていたので驚きました！いっぱい褒めてあげました。
- プールで水を怖がっていた子が、潜ってびっくり。聞いたら夏休みの短期水泳教室に通っていたそうです。
- いつも遅い子が昼食を早く食べ終えたので驚いて聞いたら、野菜も食べられるようになったということでした。

「年中組担任の報告」

- 給食の時間が苦手だった子が、今日の給食では初めて完食して驚きました。
- その給食を食べられた子のことを、グループの友だちが応援したり拍手したり…今ま

では自分のことだけで、人のことまで気が回らなかったのに、成長を感じました。

●1学期、家庭の問題で精神的に不安定だった子が、休み中一度も登園していないので心配していたんですが、不安を訴える時間も激減し、笑顔も見られて安定した様子になりました。よかったです。

●いつもスプーンとフォークしか使わなかった子がお箸が使えるようになっていました。

●あまり喋らなかった子が、夏のキャンプの経験を堰を切ったようにたくさん話してくれました。

「年少組担任の報告」

●野菜嫌いだった子が、頑張って食べられるようになっていました。夏休みに練習したようです。

●1学期おしめで通園していた子が、パンツで登園！はじめはモジモジしていましたが、可愛いパンツだね！と励ましてトイレにいき、はじめてトイレでできました！

●先ほどの子ですが、トイレでできたことで自信がつき、我儘だった態度もソフトになって、昼食のとき、嫌いな野菜にも挑戦する姿がみられ、一つできたことで他の生活面も改善される様子がよくわかりました！

●プール活動になると石のように動かなかった子が、活動に参加できるようになっていました。お父さんと水遊びをたくさんしたそうです。

●1学期には見られなかった意外な顔ぶれで遊んでいるので聞いたら、夏休みにクラスの友だち同士（グループ）でよく遊んだということでした。

+++++

担任の話から、親が我が子とたっぷり関わってくれた姿が目には浮かんできます。

園からも「夏休みのカレンダー」という、週ごとに夏の目標を書き入れる教材（市販品）を事前に配りますが、これも目標を設定するのに効果があったようです。2学期に回収してみると、「トイレをがんばる」「おてつだいをする」「やさいをたべる」「水にかおをつける」など、それぞれ子どもと相談して書き込んだ目標が書かれていて、夏休みを有効に使ってくれた様子が具体的にわかりました。

カレンダーを見ながら担任は「〇〇がんばったね！」と、花マルなんかを書いて、その子の自信とやる気を高めて2学期の保育活動に生かしていきます。



《ペイントに飽きたら水遊び?》

最後の報告は、夏の預かり保育に積極的に通った年少の女の子の話です。お母さんが担任にこう話してくれたそうです。

●人見知り強く、1学期に決まった友だちとしか遊ばなかったのが夏休みのあそびっこに積極的に通わせたんです。あそびっこでは年中長や小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんに可愛がって頂いて、たのしく揉まれたお陰で、

人見知りがほとんどなくなりました。よかったです～。

もう1人別の人…

●お庭の大型遊具がこわくてできなかったんですが、夏のあそびっこで何回も挑戦してできるようになったんです！よかったです～。

夏休みを子どもの成長という視点で見たときに、もう、これはごく当たり前の結論しか出ないんですが、親が我が子としっかりじっくり向き合うことがどんな状況であれ子どもの成長につながることはハッキリしています。

そして、「幼稚園の夏休み」は、完全休業でも完全営業でもない、なんとなく中途半端でゆるい時間を提供できるメリットがあります。

言い換えれば“教育する場”から“あそび広場”的な役割にチェンジすることで、案外と子どもたちを豊かに育てているのかもしれない。

